Sagor för barn på svenska

berattelser.se

カバに毛がない訳

Skriven av: Basilio Gimo, David Ker
Illustrerad av: Carol Liddiment
Översatt av: Sayuri Hayashi

Denna saga kommer från African Storybook (africanstorybook.org) och vidarebefordras av Sagor för barn på svenska (https://berattelser.se/), som erbjuder sagor på många språk som talas i Sverige.

Detta verk är licensierat under en Creative Commons
Erkännande 3.0 Internasjonal Lisens.
https://creativecommons.org/licenses/by/3.0/deed.sv

カバに毛がない訳

Basilio Gimo, David Ker
Carol Liddiment
Sayuri Hayashi
japanska
nivå 2

(utan bilder)

ある日、うさぎが川のほとりを歩いて
いました。

カバもそこで散歩をしながら、すてきな緑の草を食べていました。

カバは、うさぎがそこにいるとは知らず、あやまってうさぎの足を踏んでしまいました。うさぎはカバを見つめてそして叫びました。「おいカバ、わたしの足を踏んでいるのが分からないのか？」

うさぎは、カバの毛が燃やされて、嬉しくなりました。そして、カバはこの日を機に火を恐れて、水から離れたところには二度と行かなくなりました。

カバは泣き出し、水を求めて走りました。カバの毛は全部火によって燃やされてなくなりました。カバは泣き続けました。「わたしの毛が火で燃えた! わたしの毛はすっかりなくなっちゃった。わたしの美しい毛が! 」

カバは、うさぎに謝りました。「ごめんよ。見えなかったんだ。どうか許してよ」けれどもうさぎは聞き入れず、カバに向かって叫びました。「わざとやっただろ! 今に分かるさ。ただじゃすまないぞ! 」

うさぎは火を探しに行き、こう言いました。「行け！草を食べるために水から出てきた時、カバを燃やしてしまえ。やつは、わたしの足を踏んだんだ！」火は「お安い御用です。友達のうさぎさん。お望み通りにやりますよ」と答えました。

その後、カバが川から遠く離れた場所で、草を食べていると「ビュン！」火がつき炎が上がりました。炎はカバの毛を燃やし始めました。